



宮田中だより 2021年9月号



電話 045-331-5288



伝えなければならないこと

校長 村井 法泰

2学期がスタートしました。今年の夏休みは、オリンピックの感動とコロナウィルスの感染拡大の話題に終始した感があります。

8月17日に、神奈川県を含む緊急事態宣言が「9月12日までの延長」と発表されました。それに伴い、本校では9月7日から予定されていた修学旅行を中止といたしました。横浜市では8月27日が始業でしたが、31日まで臨時休業となりました。9月1日からの学校生活については、メール配信とロイロノートでお知らせしました。多くの変更を余儀なくされましたが、今後実施が予定されている行事についても、生徒の安全を第一に考えながら判断していきたいと思えます。詳細は後日連絡いたします。

そんな中ですが、夏休み中には記憶にとどめておかなければならない日がありました。8月6日、9日、15日と聞いて、生徒の皆さんは思い当たることができるでしょうか。そして9月1日は関東大震災が起きた日。移動、集合を伴う訓練は実施できない現状ですが、本校では、防災意識を新たにしたいと考え、この日に防災訓練を行いました。

私は小学生の頃、祖母から関東大震災の話聞いた記憶があります。地震の凄さ、恐ろしさは祖母の話から十分伝わってきました。ところが今の中学生にとっては、教科書で学ぶ歴史の一部です。太平洋戦争も、東京や横浜の大空襲は、子ども達に語れる人はほとんどいなくなりつつあります。地下鉄サリン事件、阪神・淡路大震災も、今の中学生が生まれるより遥か以前の出来事です。21世紀になって起こった、2001年9月11日のアメリカ同時多発テロでさえ、中学生が生まれる遥か以前の話になってしまいました。2011年3月11日、東日本大震災も生徒達の幼い日の記憶に残っているでしょうか。

個人的な話になりますが、若い頃バックパッカーとして初めてアメリカに行き、いちばん最初に訪れた場所がワールドトレードセンタービル、ツインタワーの屋上でした。低い手すりからマンハッタンの街並みを見下ろし、これから1か月のアメリカの旅にワクワクしました。2001年、事件が起きた時には友人・知人がニューヨークで生活していました。後になり、幸い犠牲者はいないことがわかりましたが、それまではなかなか連絡が取れず心配ばかりが膨らみました。

自分がリアルタイムで経験した大きな出来事を、後の世代にどのように伝えればよいでしょうか。自分が経験していない震災や戦争などの話を、後の世代にどのように伝えればよいでしょうか。我々は教師として、また人生の先を歩く先輩として、直接・間接の経験で自分がその時感じた思いを、子ども達に伝えていくことが大切だと考えます。子ども達が我々の話から何かを感じ、自ら向き合う種をまくことが、教師・大人の大切な責務だと思います。